

令和4年度 第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会 議事録（要旨）

● 日時、出席者等

| | |
|-------|--------------------------|
| 日時 | 令和4年6月8日（水）13時30分～15時30分 |
| 会場 | 岩見沢市役所3階 会議室3-5 |
| 出席委員等 | 委員13名、特別委員3名 |
| 傍聴者 | 0名 |
| 事務局等 | 事務局5名、事業担当者7名 |

● 議事録（要旨）

| 会 議 次 第 | 協 議 内 容 |
|-----------------------|---|
| 1 開会 | <p>（事務局）</p> <p>定刻となりました。皆さまお揃いになりましたので、只今から、令和4年度第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会を開催させていただきます。</p> <p>本日の会議は、コロナ禍の影響等もあり、対面での開催は令和2年1月以来約2年半ぶりとなります。本来であれば、総合戦略が第1期から第2期へ移り、対面で意見交換をしながら新しい総合戦略の推進に取り組んでいくところではありましたが、そのような機会が作れずお詫び申し上げます。その間、書面での開催にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>後ほどの議事にもございますが、第2期総合戦略の開始に合わせて委員の皆さまは改選となっておりますが、対面での開催ができていなかったこともあり、互選で決めることとなります会長の選出ができておりませんでした。会長の選出まで事務局において進行させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> |
| 2 委員紹介 | <p>（事務局）</p> <p>はじめに、委員の皆さまのご紹介をさせていただきます。</p> <p>【委員紹介】</p> <p>次に、特別委員、オブザーバーの皆さまのご紹介をさせていただきます。</p> <p>【特別委員紹介】</p> <p>続きまして、事務局の紹介をいたします。</p> <p>【事務局紹介】</p> |
| 3 議事 (1) 会長の選出について | <p>（事務局）</p> <p>続きまして次第3 議事に移ります。</p> |

現在の委員体制になってから対面での開催がありませんでした。委員会の設置要綱第3条第4項により、委員の互選により会長を決めることとなっております。会長の選出につきまして、いかがいたしましょうか。

(事務局一任)

ただ今、事務局一任のお声がございましたが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、事務局の案をご説明いたします。

事務局といたしましては、本委員会は、総合戦略の策定後の数値目標等の進捗管理、さらには、市全般の施策の評価を担っていただく役割があります。同様に、市の行政改革大綱等の策定並びにその後の進行管理につきましてご意見をいただいております岩見沢市市政改革懇話会会長の堀会長にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

異議なしということですので、市政改革懇話会の堀会長に本委員会の会長をお願いいたします。

なお、総合戦略等推進委員会設置要綱第4条第1項により、会長が議長となりますので、ここで、進行を交代いたします。堀会長よろしく願いいたします。

(会長)

ただいま、会長に指名いただきました堀でございます。この委員会は市民すべてに関わる政策や考えをまとめていくものでございます。十分に役に立てるか分かりませんが一所懸命努めさせていただきます。

それでは、会議を進めさせていただく前に、最初に委員会設置要綱第3条第6項の会長の職務代理者を選出させていただきたいと思っております。

職務代理者の選出につきまして、いかがいたしましょうか。

(会長に一任)

私といたしましては、委員の皆さま方はそれぞれの役割を担って市民の方に関わるお仕事や活動をなさっていると思われませんが、中でも、それぞれの地域の市民に関わる町内会を束ねる町会連合会の会長を務めておられます千葉委員に職務代理者をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

| | |
|--|---|
| <p>4 協議事項 (1) 第2期総合戦略の取組みについて</p> | <p>それでは、千葉委員に職務代理者をお願いいたします。</p> <p>(会長) 本日の委員会の次第に従って、4 協議事項に入ります。 事務局からの説明の後、委員の皆さまの意見交換をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、事務局から説明をお願い致します。</p> <p>○事務局から説明</p> <p>(会長) ご発言については、説明内容について分からないことに対する質問という部分と自分の関わりや市民のための意見という部分があるかと思いますが、分けてしまうと返って難しい部分もあろうかと思っておりますので、委員の皆さんが思ったことを発言していただきたいと思っております。 事務局からは色々な説明がありましたが、資料の6、7頁には出生数が7年間で491人から329人に減っており、もう人口を増やす、出生率を上げるだけではなく、社会動態を含め、減り方をどう緩やかにするかということがこの戦略の趣旨ですので、そこにはこだわりませんが、そのような趣旨をご理解いただいてご発言いただければと思います。どなたでも構いませんので、いかがでございましょうか。</p> <p>(委員) 本日の進行は、ただいま事務局から説明のあった内容のみについて議論していくのか、それともこれまでの書面開催の資料についてもすべて議論の対象とするのか、どちらでしょうか。</p> <p>(会長) ただいま説明のあったものだけでなく、思ったことを発言いただいて構いません。関係ない項目と思っても何かしらの関連があるものです。</p> <p>(委員) 第2期総合戦略に登載されている事業については今後、増やす減らすなどの変更は考えられているのでしょうか。</p> <p>(事務局) 先日ご意見を伺った改訂案の中にも令和4年度の市の事業との整合を図るために変更した施策がございます。今後におきましても事業の追加や統廃合はありうるものと考えております。</p> |
|--|---|

(委員)

基本目標3の中に掲げられている次世代を担う子どもの教育環境の充実に関する喫緊の課題として、青少年が豊かな生活ができ、芸術・文化・スポーツを諦めずにすむ、という環境について、とりわけ「部活動の地域移行」に取り組む必要があります。岩見沢で子育てしたい方々にとっては、中学・高校で今まであった部活動があるかないかは重要ですので、ぜひ議論をして検討して事業化していただきたい。

(事務局)

昨年1年間に生まれたお子さんが329人ですので、6年後の小学1年生、15年後の中学3年生はそれしかないことになります。これまでも学校の統廃合はありましたが、地理的な課題から一緒にできない部分も当然あり、1校あたりの人数が1年毎に減少していきます。特にチームスポーツは学校単位では成立しないことになると、部活動はスポーツに限らず、芸術文化も含め子どもたちが触れる第一歩であり、基本目標2にある芸術文化・スポーツを活かしたまちづくりについても影響があり、総合戦略全体の方向性も考え直さないといけなくなります。総合戦略は個別の施策を細かく載せていないものもありますので、将来に向けた危機感や方向性を委員会をはじめ市民全体で共有して、人口減少をいかに抑制するか、これからのまちづくりをどうするか、社会情勢も変化しますので、事務事業についても今日のような議論内容等を参考に見直しをかけてまいります。

(委員)

子どもたちの学びの環境を整えるだけでなく、芸術文化・スポーツが豊かな生活を支える、地域ブランドの核として人を集めるための戦略として、すべてが連動していますのでこのような場で皆さんと課題意識を共有したいと思っております。

(委員)

5ページの進行管理の説明ではPDCAサイクルをどのようにまわしていくのか、検証の後のアクションにどうつなげていくのかが分からない。8ページの実績値は2年前だが、民間の人間からすると直近のものでないと評価はできない、また、半分の数値が公表できないのに概ね順調といえるのかは疑問です。

(事務局)

本来であれば、年2回程度実施すべき委員会がコロナ禍で開催できな

かったこともあり、本日は令和2年度の実績を令和3年度の事業検証という資料になっております。令和3年度の速報値をご用意できればよかったです。データが揃っていない部分もありますので、令和3年度実績の検証は夏以降のなるべく早い時期に実施いたしたいと考えておりますのでご理解のほどお願いいたします。

(委員)

最新の数値でご説明いただくことも重要ですが、もともと地域課題の解決が成果ですので、数値で表現できないものも定性的な文章表現で解決の方向性とあわせて説明いただいても市民の方には分かりやすいのではないのでしょうか。

(委員)

今回の改訂は何が変わったのでしょうか。また、合計特殊出生率は人口ビジョンの中で1.80という数値も出てきますが、9ページでは目標値1.40となっていますが、これは変更したということでしょうか。

(事務局)

今回の改訂はこれまでの事業の進捗から文言に修正を加える必要のあるものや令和4年度の事務事業との整合を図るための軽微な変更でございます。また、合計特殊出生率は市民の希望出生率1.80を叶えるために第2期総合戦略の期間で目指す数値を1.40としており、今回の改訂で変更はしておらず通過点と考えております。

(委員)

移住定住の促進は雇用の問題と切り離せない、教育大生が卒業後に岩見沢に残ったり、外からの移住者が事務系の仕事などで働く環境を確保する取組みは移住定住の分野ではどうなっているのでしょうか。

(事務局)

4ページに「相乗効果による好循環の拡大」とありますが、個別の施策は計画上、主たる目標に振り分けて掲載しております。ご指摘のとおり、雇用、働く場、所得向上によって生活力を付けることは定住に不可欠でございますが、その辺は基本目標1に振り分けておりまして、最も主たるところとして掲載しております。今後は、相乗効果として関連付けた説明も含めて考えてまいります。

(委員)

教育大生の進路につきましては、官公庁を除くと今年、岩見沢に残った

のは5名おります。岩見沢の企業に就職したくて残ったのではなく、岩見沢で様々な活動をしたくて残っている、彼らが言うのは支援が必要だという事です。起業するための支援があれば同じような行動をする若者はいて、むしろ岩見沢に定住したい人たちは街づくりに参画したい、まちを良くしたい意思がある。そのような若者が毎年10人、15人出てくると中長期的にはいろいろな相乗効果があり、どのようなサポートがあるといいかをみんなで知恵を出し合って連携して戦略を練っていくと効果があると思います。

(委員)

7ページの右下で20代の若者が大学卒業とともに出ていくことが数字上顕著です。北海学園大学と岩見沢市で共同で意識調査した中で、一人暮らしの若者で岩見沢にそのまま住み続けたいと思う方の満足度が高い項目は「岩見沢への愛着」「近隣の方々との交流」「サードプレイスがある」の3つで、サードプレイスは家、学校・職場以外の集える場所があるということです。大きな社会減である若者の転出抑制、また、札幌などから呼び込むにはこのあたりの満足度を高める必要があります。最近ではIT企業を中心に場所を問わない働き方が可能になってきている、物理的に雇用を確保するのも重要ですが、ICT基盤の整備で若者に選んでいただける住環境を整えることも検討の一つとなります。

(委員)

子育てしていると出生率が低いなという実感がありますが、一人子どもがいると二人、三人という方もいるなと思います。岩見沢は保育所を待つこともなく、都会に比べて児童館も充実しています。出生率の低下はまったく子どもを産まないという女性や、独身の女性が多いからではないでしょうか、就業も含めて結婚して子どもを産みたいと思う若い女性を増やすイメージ戦略、この街でどう暮らせるのかというモデルづくりが必要だと感じています。

(会長)

そういう中で子どもが300人台に減っていて、課題がたくさんあるということですね。

(委員)

住む場所と働く場所は分けることができる時代で、若い世代にとってライフスタイルやモデルがもっと具体的に示されると意識改革になる、若者と話すと岩見沢の良さは適度なサイズで人と人の距離が近い、農業を始めた若者に聞くとブドウ畑でギターを弾いて歌を歌うことのできるライフ

スタイルは都会にはない、そういうことが若い世代にもっと浸透すると I T 企業にいながら美流渡地区に住むとか、農業に参画して S D G s を目指すとか、いろいろな価値観を若者と共有する、そういう時間や場所を作ると岩見沢への愛着が増すのではないか、ここに住んでみたいと思うのではないか、このサイズの街の良さを逆手にとって複合的な支援をすることで若い世代が定着し、人を呼び込むことにつながるので、戦略的に考えていただきたい。生活の満足度と子育てはリンクしていますし、切れ目がなく循環している、若い世代の流出は数字として表れているので、そこに特化した複合的な支援を戦略的に打てば改善すると思います。

(委員)

岩見沢には北海道の中でも目玉がない、公園を作ったり広げても大した活性化につながらない、いろいろなところから人を集めることを考えた戦略が必要で、公営住宅も空き家が多いのに人が入らない、画期的な家賃減免とか考えないといけない、山をまるごと一つ公園にしたりとか大胆な施策が必要、財政云々というは何もできない、将来的に人が集まる施策ならしっかり検討してほしい。

(委員)

岩見沢の I C T 推進は農業に重点的すぎるのではないかと考えていますが、これからはインターネットの拡張によって個人ができる範囲が広がっていく時代で、若者を定住させるには個人へのインターネット環境の充実が魅力となって、そんな中で多様性が生まれてきます。美流渡地区では M A Y A M A X X さんが活躍されているが、アーティストインレジデンスのような形で支援して芸術を育ててトリエンナーレ、ビエンナーレとして表現して行って、教育大学の学生とコラボすることで地域への還元につながり、複合的な目標とか成果が出てきます。4 ページの相乗効果が一番大きくて複合的に要素が関連して街づくりが進んでいく、岩見沢が特化するものとして I C T を推進していくことが魅力になってくると思います。

もう一つは、基本目標にプラスしていく部分として、令和 2 年に国交省がウォークアブル推進法といって、まちなかを気持ちよく歩ける街並みを推進していく取組みですが、岩見沢はまだ申請していませんが駅前通りや中心市街地を再生することも補助金を使ってできます、数値目標も大切ですが、一般市民としては街がきれいになった、若者が増えたという肌感覚でしかわからないので、新しい政策にも対応して総合戦略の事業もアップデートして行ってほしい。

(委員)

共通しているのは複合的だし、相乗効果があるということですが、事業

間の相互連携を表す一助としてSDGsのアイコンは使えるのかなと思います、市民から見ても施策同士の関連が分かるといい。

(委員)

国はデジタル田園都市国家構想推進基本方針として、総合戦略の看板の架け替えを進めていて、おそらく交付金の要件にもなってくると思いますが、先進的にやられていますのでこれまでされてきた議論が大切ですので、今後もいろいろ情報共有してまいりたい。

(委員)

中小企業の話を見ると募集しても人材難、雇用のミスマッチがある、教育大学生の話は地元の経営者はほとんど知らないと思いますし、外国人労働者が岩見沢に居住する視点もいまの戦略には見当たらない、障がい者や女性に関しても同様、もっと議論して情報共有していくことが必要だと思います。

(委員)

空知信用金庫でも毎年10～15名前後の採用をしています、前向きな方から消極的な方まで色々と、教育大学生の方が起業したいという話を聞くと大変うれしく思います。市の創業塾に私たちも計画策定や資金繰り、販路支援などでサポートさせていただいているが、もっと頑張っていかなければと思いました。総合戦略は多岐にわたっていて取組みは素晴らしい、PDCAサイクルのチェック、アクションは短期・長期の色分けをしながら再考すべきものはして、学生と直接関わる先生方の意見も聞いていくことが必要です。限られた予算の中で企業や団体、金融機関も真剣に考えて独自施策を打っていく、市にお願いするだけではなかなか実現できないので微力ながら創業支援などでサポートしてまいりたい。

(委員)

自分は親の代から岩見沢に住んでいて、土着の念というか思い入れがあります。思い入れを持って住んでもらえる層をどんどん増やしていくことが大事で、そのためにどうしたらいいのかを考えていく必要があると思います。昔は人が多くて、土・日には街でぶつかりながら歩いていた記憶があるが、いまは中心街に人がいない、ここ20～30年で色々なものが無くなっていった。教育大にしてもグリーンランドにしても、これ以上、いまあるものを無くさないために最大限活かすために人を呼び込む必要があります。若者が子育てするために子どもが生まれたら固定資産税10年減免くらいの大胆な施策が必要なのかなと感じました。

| | |
|--------------|---|
| <p>5 その他</p> | <p>(委員)</p> <p>実績値だけを見ると上昇して良くなっているのか、現時点だけ下がっているのかが分からない。抜粋でもいいので経過も含めて載せていただくと見やすくなると思います。</p> <p>(委員)</p> <p>目標に対しての数値の結果だけではなくて、いい形のものには市民に対してオープンにしていってもいい。農業分野でいうと出生率は高いと感じるし、職業として時間がある程度自由になる面もあるのかもしれない。農業後継者も女性の方は地元以外の方が多く積極的で、そういう良い面はもっとアピールしていいのではないのでしょうか。</p> <p>(委員)</p> <p>介護の世界も人口減少、働き手が少ない、外国人労働者の話は身近になってきています。本来であれば若者が担ってくれるといいがなかなかそうならない、魅力ある就業の場をつくり、今ある雇用も守っていくのが大切で、市の方も限られた予算の中で頑張っていますのでより良い方向に進めてほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>I C T環境の空白地帯はなくしていかないといけない。岩見沢でも病児保育の環境がもっと整ってくれば若者が住んでくれるのではないかと、空き家の解消にもなります。</p> <p>(会長)</p> <p>対面での開催は久しぶりで、新しいメンバーとははじめてお会いしましたが、次回に向けましては、行政への要望も多くあると思いますが、市民の方々との関わりの中で出てくる意見などをお持ちいただければいいのかなと思います。それでは、次回のスケジュールについて事務局からお願いいたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>堀会長ありがとうございました。</p> <p>先ほど意見交換の中でもご意見出ておりましたが、現在、令和3年度の指標や進捗状況をまとめているところであります。また、国のデジタル田園都市国家構想などの動きも出てくるかもしれません。そのあたりを踏まえまして、次回の委員会は夏か秋頃を目途にご案内できればと思っております。</p> |
|--------------|---|

| | |
|------|--|
| 6 閉会 | <p>(会長)</p> <p>本日はお忙しい中ありがとうございました。</p> <p>次回の予定は、いま事務局からご案内したとおりでございますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p> |
|------|--|